

## いじめ防止に係るアンケート調査の結果について

### 1 アンケートの目的

- (1) 児童生徒の視点も含めた「三田市いじめ防止基本方針」に改定するための参考とする。
- (2) 児童生徒のいじめに関する考えを把握する。

### 2 調査の対象と回答数

#### (1) 調査対象

- ・ 三田市内の公立小学校に在籍する小学5年生と小学6年生
- ・ 三田市内の公立中学校に在籍する中学生

#### (2) 回答数と割合

学年	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
対象数(人)	1,042	1,020	907	958	979	4,906
回答数(人)	686	682	781	701	708	3,558
割合(%)	65.8	66.9	86.1	73.2	72.3	72.5

※任意回答の質問項目があるため、質問項目によって回答している人数は異なる。

### 3 実施期間

令和7年11月10日(月)～11月28日(金)

### 4 調査方法

電子申請システム LoGo フォームを用いたアンケート調査方式

## 5 調査結果

質問1：どうしていじめをしてしまうと思いますか

### ◎全体の傾向

傾向	主な回答
<p>○<u>個人的な感情・関係性の不和</u></p> <p>「嫌い」「気に食わない」「気が合わない」「ムカつく」といった、対象者に対する否定的な感情や、人間関係の不和を原因とする回答が最も多く、学年を問わず根源的な理由となっている。</p>	<p>「嫌なことを相手がしてきたから（小5）」</p> <p>「自分と違っていたり、自分がその人をおかしいと思うと、いじめてしまうのではないかなと思います。（中1）」</p> <p>「価値観の違いや性格の相性が合わずにこじれていってしまうから（中2）」</p>
<p>○<u>行為者の無自覚と認識の甘さ</u></p> <p>「遊び半分」「面白がって」「いじりだと思った」「いじめをしていると思っていない」という回答が多く、行為者が自分の行為をいじめとして認識しておらず、軽い気持ちで始めた結果エスカレートすることがあるという回答も見られる。</p>	<p>「いじめている人が、いじめをしていると思っていないし、楽しんでいるから（小5）」</p> <p>「多分いじめている本人はいじめじゃなくてふざけて相手も面白がっているのだと思っています（小6）」</p> <p>「その子の性格や、ちょっとしたことをからかったり、いじったりしているつもりでも、度が過ぎてしまっていじめだと捉えられてしまう（中3）」</p>
<p>○<u>ストレスや不満の捌け口</u></p> <p>「ストレス発散」「イライラ」「八つ当たり」といった、自分の内面的な不満や余裕のなさを他者にぶつける行動を指摘する回答が見られる。</p>	<p>「している側もストレスを抱えているから（小5）」</p> <p>「普段のストレスを他のものにぶつけようとするから（小6）」</p> <p>「自分のモヤモヤや苛立ちのはけ口として、嫌いな人にぶついたりしてしまう（中3）」</p>
<p>○<u>優越感の獲得</u></p> <p>「自分が上だと思いたい」「自分の立場を優位にさせたい」といった、優越感を得るためにいじめを行うという、複雑な集団心理を指摘する回答も見られる。</p>	<p>「いじめられている人に対してうらやましいところや自分よりすごいと感じる部分があっておきと思う（小6）」</p> <p>「自分より弱い人を見つけていじめることによって自分が強いと思いたいから（中2）」</p> <p>「自分より下の立場の人を作って安心感を得たいから（中3）」</p>
<p>○<u>自己保身</u></p> <p>「次に自分が狙われないため」といった、集団の中での自身の立場を守るためにいじめを行うという回答も見られる。</p>	<p>「誰か1人が仲間外れにしようすると、他の人も流されて『しよう』と言ってしまうから（小5）」</p> <p>「自分がいじめられたくないから他の人をいじめる（中1）」</p> <p>「人に合わせておかないと不安だから（中3）」</p>

質問2：いじめをなくすために、あなたや皆さん（子どもたち）はどんなことができると思いますか

◎全体の傾向

傾向	主な回答
<p>○<u>信頼できる大人・友人への相談</u> いじめを発見・経験した際の行動として、「先生に言う」「友だちに相談する」「家族に伝える」など、信頼できる大人・友人への相談が全学年で多く見られる。</p>	<p>「先生や友だちに相談する（小5）」 「自分たちで解決できなそうだったら先生にすぐ言う（中1）」 「困っていることがある・いじめられていそうな人を目撃したという時、遠慮なく親や先生・スクールカウンセラーの方などに相談するようにすると思います。『心配をかけたくない』という気持ちはわかりますが、私的には相談しない方が自分も親も苦しいと思っています。（中2）」</p>
<p>○<u>他者理解と共感</u> 「相手の気持ちを考える」「自分がされて嫌なことはしない」といった共感に基づく行動や、「仲良くする」「差別をなくす」「仲間外れをしない」といった日常的な関係性の改善を重視する意見が多く挙げられる。</p>	<p>「自分の考えていることが正しいことか考える（小5）」 「自分がされたら嫌な事を他の人にはしない事で多くの人と仲良くなる事ができると思います。（小6）」 「私が考えるに、その子に自分の『当たり前』を押し付けないことが大切なんじゃないのかなと思いました。なぜかというと、私もいじめを2、3回ほど受けてきましたが、『当たり前』という自分の考えを無理矢理押し付けようとしているように感じたからです。（中1）」 「意見が合わなくても苦手な人でも、広い心で話してみる。意外と仲良くなったり何も思わなくなったりすると思うから。（中3）」</p>
<p>○<u>積極的な仲裁</u> いじめの場面で「止める」「注意する」「やめなよと言う」と積極的に仲裁する行動を挙げる回答も多い。特に中学生では、いじめを容認しない「傍観者にならない」という意識が明確に示されている。</p>	<p>「いじめられていると思った人に『大丈夫』などの声をかける（小6）」 「友だちが、誰かの悪口とかをいい過ぎていたり、意地悪していたら『それは違うんじゃない?』と止めること（中1）」 「誰かがいじめられていたら声をかけたり、直接その人に言っていなくても傷つけてしまうような言葉を言っていたらダメだと言えたりすることが大切だと思います。（中2）」</p>

質問3—1：あなたは、学校生活の中で不安を感じることはありますか

○ある：526名（15%）      ○ない：2824名（85%）

【「ある」の内訳】

学年	人数（名）	割合（%）
小学5年生	114	16.6
小学6年生	121	17.7
中学1年生	99	12.7
中学2年生	91	13.0
中学3年生	101	14.3

◎全体の傾向

質問3-2 (場面)	質問3-3 (理由)	主な回答 (質問3-3)
<p>○<u>人間関係の不安定化</u> 「友達が小声でなんか他の友達に言っている時」「自分だけ置いて行かれる時」「友達とグループになって話す時に自分だけ浮いているように感じる時」など、集団内での自分の位置づけが不安定になる瞬間を不安に感じている。</p>	<p>○<u>いじめに発展する懸念</u> 「遊びがいじめにかわりそう」など、ネガティブな行為が深刻な問題に発展するリスクが不安を増幅させている。</p>	<p>「陰口がひどくなり意図関係なしでいじめにつながるから (小6)」 「クラスの人が悪ふざけて殴ったり蹴ったりしているものが、いじめへと変わっていくのではないかと。本当は嫌な思いをしている人がいるのではないかと不安 (中1)」 「自分のことを仲間はずれにしているのかなと思ってしまう (中2)」</p>
	<p>○<u>孤立への恐怖</u> 「嫌われていたら○対1とかになるから怖い」 「他人にどう思われているか心配だから」など、評価が他者によって決定されることへの強い不安が全ての学年で共通している。</p>	<p>○<u>将来への不確実性</u> 「成績が落ちるから」 「進路おちたらどうなるかが不安」といった、学業や進路選択が自分の将来に与える影響へのプレッシャーが、特に中学生の不安の理由となっている。</p>
<p>○<u>他者からの評価</u> クラス替え、席替え、チームの振り分けといった人間関係がリセットされる場面や、テスト、発表、進路など、他者から評価される場面が共通して不安を引き起こしている。</p>	<p>「勉強に追いつけないから (小5)」 「これからもっと悪い点数を取ったら将来いきいけないじゃないかと思う (中2)」 「進路や将来のことを真剣に考えているからこそ点数が気になる (中3)」</p>	

質問4：もし、あなたが「嫌だな」と感じることを誰かにされたとき、周りの人（友人・先生・家族）にどんなことをしてほしいですか。

◎全体の傾向

(1) “友人” に対して

傾向	主な回答
<p>○<u>寄り添いや共感</u></p> <p>「話を聞いてほしい」「相談に乗ってほしい」に次いで、「慰めてほしい」「励ましてほしい」「大丈夫？と声をかけてほしい」といった、寄り添いや共感を求める声が多い。また、「味方になってほしい」という、心理的な支えを求める声も目立つ。</p>	<p>「大丈夫だよと言ってほしい（小5）」</p> <p>「大丈夫？も嬉しいけど友達に相談した時は多分十分に我慢して耐えてそれでも限界だったから相談することにしたと思うから頑張ったねとその一言だけでもいいから声をかけてほしい。（中1）」</p> <p>「解決しようとするのではなく、まずは優しく話を聞いてほしい。（中3）」</p>
<p>○<u>場面での仲裁や相談</u></p> <p>いじめを受けている場面では、「『やめなよ』と言ってほしい」「止めてほしい」「先生に言ってほしい」といった、具体的な仲裁を求める声が多く見られる。</p>	<p>「『やめて』とか言ったり守ったりしてほしい（小5）」</p> <p>「見て見ぬふりをせずに、大人の人に言ってほしい（小6）」</p> <p>「寄り添ってほしいのと、先生に報告してほしい。これはチクリではなく、勇気ある立派な行動だと思う。（中2）」</p>
<p>○<u>関係性の維持</u></p> <p>「いつもと同じように接してほしい」という、いじめの有無にかかわらず、変わらない関係でいてほしいという願いがある。</p>	<p>「嫌なことをしてきた人に流されずに、嫌がらせは駄目と判断してほしい（小6）」</p> <p>「私がいじめをされた時にいじめをしている人に流されるのではなく、話を聞いて、いつも通りに過ごしてほしいです。（中1）」</p> <p>「いつも通り楽しく話しかけてほしい。いじめられているからと声をかけないんじゃなくていつも通り接してほしい。一番相談しやすいからこそそばにいてほしい。（中2）」</p>

(2) “先生” に対して

傾向	主な回答
<p><b>○問題の解決</b> 「話を聞いてほしい」の次に、いじめの「解決」を最も強く求めている。</p>	<p>「いじめの人（いじめをする側）に話をしたりしていじめをできるだけ早く終わらしてほしい（小5）」 「いじめられていたら相談に乗ってくれたり、いじめてきた人などに注意したりするなどのいじめ解決に近づくことをしてほしい（小6）」 「解決策を一緒に考えてほしい。どちらかの視点に偏らず、中立の立場にいてほしい。（中3）」</p>
<p><b>○加害者への指導</b> 「いじめた子に注意・指導してほしい」「怒ってほしい」「話し合いの場を作ってほしい」など、加害者への毅然とした対応と再発防止の指導を求める声が多い。</p>	<p>「その『嫌だな』と感じる事をしてきた人と話してきて、どうしてこんなことをしたのかを、聞いてきて欲しい。（小5）」 「先生も入れてその子と先生と一緒に話し合いたい。（小6）」 「嫌だなと感じることをした人に、自分がしてしまったことの重大さなどを教えてほしい。（中2）」</p>
<p><b>○配慮への願い</b> 「そっと事情を聞かずに寄り添ってほしい」「私が先生に相談したことがわからないように本人に注意してほしい」といった、対応の仕方や情報管理への具体的な配慮を求める意見も見られる。</p>	<p>「片方だけの意見じゃなくて全員の意見をしっかり聞いてから話を進めて欲しい（中1）」 「忠告したり、『これからはしないように』と言って終わるだけではなく、そこから先も目を光らせておいてほしい。言ったら言ったで『あいつチクリやがった』と言ってまたいじめが始まってしまうから。（中2）」</p>

(3) “家族” に対して

傾向	主な回答
<p><b>○心のケア</b> 「話を聞いてほしい」「相談に乗ってほしい」に加え、「励ましてほしい」「気持ちを理解してほしい」「安心させてほしい」など、精神的なケアと無条件の受容を強く望んでいる。</p>	<p>「出来事を話すために言いやすい雰囲気を作ってほしいです。（小6）」 「共感して欲しい、自分の気持ちをわかって欲しい。どうしたら解決できるかとかも大事だけど親には共感して欲しいです。（中1）」 「ただ自分の話を聞いて共感してもらっただけで、話を聞いてくれるだけでも落ち着ける、気が楽になると思うのでただ話を聞いてもらいたいです（中2）」</p>
<p><b>○解決への協力と抑制</b> 「一緒に解決策を考えてほしい」「先生に相談してほしい」といった協力の願いがある一方で、「何もしないでほしい」「心配をかけたくないから、知っていても知らないふりをして欲しい」といった、家族の介入を望まない、複雑な感情も一定数見られる。</p>	<p>「解決するためにどういう事をしたら良いかとかこうした方が良いんじゃない？って感じて話を聞いてほしい（小5）」 「自分がいじめられていることを隠さずに言って、家族には少しでも良くなるような行動をしてほしいです。なぜなら、家族が解決するために動いてくれないと自分たちの居場所がなくなるし、家に行きづらくなると思ったからです（小6）」 「優しく話を聞いてほしい。解決策を一緒に考えてほしい。（中3）」</p>